中学校　資料名「一冊のノート」（出典：私たちの道徳）

◆**実践校名**　松原市立松原第四中学校，　松原市立松原第三中学校，　八尾市立高美中学校、
河内長野市立東中学校

◆**主題名**　家族への敬愛　　**道徳の内容**　４－（6）Ｃ－家族愛

◆**ねらい**　かけがえのない家族の存在に気付き、その一員とて関わり合いながら、充実した家庭生活を築こうとする態度を育てる。

◎**中心的な発問**

「僕」は祖母と並んで草取りをしながら、心の中で祖母に何を語りかけていたと思いますか。

◆**本時の展開**

	学習活動	発問と予想される子どもの反応	指導上の留意点及び評価
導入	◎自分と家族との現在の関係をイメージさせるため、自らの体験をあげさせる。	家族っていいな・うっとうしいなと思ったことはありますか。 ・何回も同じことを言われて腹が立った。 ・悩みを聞いてくれた。	○なるべく身近な話題で、共感できるように。 ○家族形態が多様化していることなどに配慮する。
展開	◎資料を範読する。 ◎祖母に対する「僕」の気持ちを考える。	「僕は友達に気付かれないように、知らん顔をして通り過ぎた。」とき、僕はどのような気もちだったのだろう。 ・自分の祖母だと気づかれたくない。 ・話しかけないでほしい。　・恥ずかしい。	○「僕」の気持ちに共感させる。
	◎祖母の現状を知った僕の心情の変化をとらえる。	祖母について父から話を聞いたとき、「僕」はどのように思ったのだろう。 ・しっかり者の祖母だったのに。 ・わかるが、どうしたらよいのか分からない。	○祖母の状況を理解してはいても、なかなか受け入れられない「僕」の気持ちに気づかせる。
	◎ノートを見た後の「僕」の気持ちについて考える。	「僕」は祖母と並んで草取りをしながら、心の中で祖母に何を語りかけていたと思いますか。 ・今までごめん。 ・おばあちゃんたちのおかげで、ここまで大きくなれてありがとう。 ・これからは支えていく。	○子どもの発言に対して、追発問をし、家族の愛情や、自らも家族の一員であることなどに気づかせる。
終末	◎本時の学習、自分自身を振り返り感想を書く。	*＜評価＞* ・祖母の「僕」への思いに気づけているか ・自らの家族に重ねられているか ・家族の一員としての自らの今後のあり様につなげられているか *（評価方法）*ワークシート	

◆研究のまとめ

○授業実践について、チームとしてのまとめ

（成果）

教師にとって

・３つの評価項目を設定したことで授業の際のポイントが絞りやすくなった。その結果、授業者ごとの取り組みの差異を改善することができ、各教師意欲的に取り組めた。

⇒３つの評価項目

①母の「僕」への思いに気づけているか

②自らの家族に重ねられているか。

③家族の一員としての自らの今後のあり様につなげられているか。

・ワークシートの観点を「授業前後の意識の変化」という２点に絞ったことで生徒の変化が分かりやすかった。

生徒について

・授業後の感想では、「僕」の苛立ちに理解は示しつつ、「祖母」や「家族」の思いに触れて自分の行動を振り返ることができる生徒が多く見られた。

・自分の家族に重ねられた記述の例

①家族の思いを想像し、それに感謝するもの。

②今までの自分の心無い行動を反省し、謝罪するもの。

③これから家族を大切にしたい、長生きしてほしい、家族に頼らず自分のことは自分でしたいなどという将来に対するもの。

（課題）→（改善策）

・３つの評価項目がはっきりしていたことが逆に、授業者側の「誘導」や「しゃべりすぎ」を生んだことは否めない。→今後は課題を理解し「誘導」「しゃべりすぎ」に気を付ける。

・上述したように、子どもの成長を把握する方策として今回はワークシートを用い、その観点を生徒の「授業前後の意識の変化」という２点に絞ったことが成果ではあったのだが、「中心発問」に対する生徒の反応を教師側が把握するという観点がワークシート内に欠けていたことにより、生徒本人が主人公の心情をどのように感じ、理解したかについて把握することが難しかった。そのため、一部生徒の事後指導が後手を踏む結果となった。

⇒ワークシートに「中心発問に対する自分の考え」の観点を追加する。

○道徳の評価についての提言

第２回のワーキングにあったように「共感的かつ確かな生徒理解に基づく評価」（中学校編）「子どもが自らの成長を実感し、さらに意欲的に取り組もうとするきっかけとなるような評価」を目ざすことを前提として、生徒の中には「道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる」といった目標と照らした時に、その評価の対象となる以前の理解（意欲・態度とは別として）で終わってしまう生徒も存在することは事実である。（別紙資料１参照）そのような生徒に対する評価の在り方についての論議、さらなる「評価項目」の精選およびそれぞれの「評価規準・評価基準」のようなものが必要となるかもしれない。

【各校での実践の記録】

◆実施学年　（１年）

◆評価を位置づけた授業実践の分析

○評価の実際（評価した子どもの姿や、それをもとに行った支援）

◎中心発問の場面の発言の様子や内容から

・「おばあちゃん今まで厳しく言ってごめん。」や「おばあちゃんの気持ちを考えずにきつくあたってしまった。」という意見が多かった。指導者から、「おばあちゃんの気持ちを知っていたら厳しく言ったり、あたったりしてもいいのかな。」と問いかけると、「そうじゃないけど…。」とうまく言葉にできないなりに考えようとしていた。「ごめんね。」を何か違う言葉に代えられないかな？と問いかけると「ありがとう。」と言う答えが多く返ってきた。

・「ありがとう。」の言葉が最も多かった。その他、「ごめんね。」「無視しなかったら良かった。」などがあった。

・「ごめんね。」と発言する生徒が多い中「おばあちゃんを支えないといけない。」と意見する生徒も出た。また「いつもありがとう。」という発言もあった。

・「今までは支えてもらっていたから、次は自分が支える。」や「病気だし手伝う。」などの意見が出た。

◎振り返りの場面の記述から

・「自分の家族に…。」や「自分もおばあちゃんのようになることもあるし…。」など自らの家族に重ね合わせている生徒もたくさんいたが、自らも家族の一員で支えられていることまで考え、これからの自らの生き方につなげられた生徒は少なかった。

・「おばあちゃんに厳しく言ってはいけない。」や「僕や弟の気持ちがわかる。」などの意見もあった。

・感想文の中には今までの自分と照らし合わせて考えているものが多く見られ、今後の家族や身の周りの人との関わりについて考えている生徒もいた。中には、「僕」の発言の中から、実は素直になれなくて照れ隠しで無視をしてしまっていたのでは？と書いている者もいた。

・自分も祖父母を大切にしないといけないというものが多くみられた。

・自らの家族に認知症の祖母がいる生徒の、『それでも叫び続けないといけないと思う。』といった、子ども自身の内面からの叫びのようなものをどのように評価すべきなのか。

○成果と課題

・教員が評価をふまえて準備できたことで、今までとは違ったかたちで授業に臨むことができた。

・授業を実施するにあたりグループで本時の評価基準を設定したが、評価の基準にあてはまらない生徒をどう評価するか。

・多くの生徒が「僕」自分を重ねていた。実際の祖父母とのやりとりの中で「僕」と重なるところを見つめ直していた。しかし、「おばあちゃんがかわいそう。」や「僕はひどい。」など感情を捕らえきれていない生徒もいた。

・自分自身に重ねて、家族のことに重ねて書けているものの、内容が薄かったり、具体的でなかったりした。また発問前に教師が話しすぎた。

・導入の自分の家族について考えるところでは、各々、具体的に考えることができ、多くの意見が出たが、本題になると祖父母と同居している生徒も多くはなく、また内容も認知症のことであり、身近にそういった方がいないとイメージしにくい。ただ、身内に認知症の方がいる生徒は、その悲しさや怒りというものをリアルにワークシートに書いていた。

実践校名（松原市立松原第四中学校）

◆実施学年　（１年）

◆評価を位置づけた授業実践の分析

〇評価の実際

・内容項目4－（6）家族愛「父母、祖父母に敬愛の念を深め、家族の一員としての自覚をもって充実した家庭生活を築く」について、授業最後の感想を元に評価を行った。その際、祖母の「僕」への思いを通して感じ、考えたことを以下の４つの観点に整理し評価した。

☆自分自身の生活に重ねられているか。

・自分は家の問題でおばあちゃんにずっと育ててもらっているから、おばあちゃんが認知症になった時はおばあちゃんの気持ちを考えて、おばあちゃんの世話をしていかなければならないと思った。

・私は今まで夏休みに母が仕事で遅くなった時に、おばあちゃんに面倒を見てもらっていたから、私もこの物語の主人公の気持ちがよく分かりました。

☆これまでの意識に変化がもたらされているか。

・あまり「家族」というのは好きじゃないです。腹が立つとかいろんな感情があって好きじゃないです。でも、今日の読みものを読んでちょっと感動しました。これからは、少しは大切していこうと思います。

☆新しい学びや気づきがあったか（“家族の大切さ”や“家族について考えること”など）。

・僕が１冊のノートを見つけて読んだとき、自分なら「おばあちゃんはこうなりたくてなったんじゃないのに」と申し訳ない気持ちでいっぱいになるなと思いました。この文章を読んで、改めて家族以上の存在はないし、家族を大事にしようと思った。

・今まで家族についてそんなに考えたことがなかったけど、今日はよく考えられた。話に出てきたおばあちゃんは心の中はどうしようもない気持ちがあるのに、みんなの前ではどうかしようとしているのがすごいと思った。

☆理想と現実という葛藤に対して思考が及んでいるか。

・この教材を読んでおばあちゃんはわざとしているわけじゃないのに、孫に叱られたのはとても辛かったと思う。でも、孫は何回も忘れることに対し腹が立つのも分かる。理由がわからなかったら人を責めてしまうけど、理由がわかったら責めないで済むこともあると思う。

（まとめ）

中心発問により、祖母の書いたノートによって、認知症の祖母の本音を知った主人公「僕」の気持ちの変化について考えた。自分のおばあちゃんや家族のことと重ねて考えた生徒が多くいた。

〇成果と課題

（成果）上記にあるように、授業通し、新しい気づきや学びが得られた生徒が多かった。

（課題）この授業に限ることなく、日常や全教科を通して本当の「道徳的実践力」となるよう、継続的な評価が必要。

◆評価に用いた資料サンプル（子どものワークシートなど）

道徳通信　『つながる』

松原第三中学校

「１冊のノート」を読んで・・・
祖母の書いたノートによって、認知症の祖母の本音を知った主人公「僕」の気持ちの変化について考えました。自分のおばあちゃんや家族のことと重ねて考えた人が多くいました。みんなの感想を紹介します。

☆私は今まで夏休みに母が仕事で遅くなった時におばあちゃんに面倒を見てもらっていたから私もこの物語の主人公の気持ちがよく分かりました。
☆もし、自分の祖母がこんなことになってしまったら、とても悲しくなるし、きっと自分も八つ当たりしてしまうから、この話を聞いてもっと優しく接して行こうと思いました。
☆お母さんが間違えたりしたら怒ってしまったりしていたけど、この話を聞いて家族のみんなは自分たちのことを考えてくれていると分かったからあまり言い返さないようにしたい。改めて家族の大切さがわかった。家族の人の気持ちも考えずに物を言っていたから第１に家族の気持ちを優先しようと思った。今おばあちゃんは認知症になったりしてないけど、そうなったら怒らずおばあちゃんの気持ちを考えようと思った。
☆おばあちゃんは２年前から自分の記憶が薄れていることがわかっていたのがお兄ちゃんは知れて良かったと思う。そのノートを見つけていなかったらおばあちゃんが思っていることがわからないから、そのノートに全部まとめてあるからノートを見つけて読めてよかったと思いました。
☆私の祖父も私の名前を間違えたり忘れたりしますが、笑って教えます。名前を忘れたりされるとがっかりしますが笑っているのは家族だからだと思いました。
☆自分は家の問題でおばあちゃんにずっと育ててもらっているからおばあちゃんがボケたときはおばあちゃんの気持ちを考えておばあちゃんの世話をしていかなければならないと思った。
☆僕は今日の授業で色々な事を学べました。家族には色々な関係があるんだと思った。僕もおばあちゃんが、そんなんだったら同じようなことになっていたと思う。このお兄ちゃんは最後にあんなことが言えるなんてすごいと思った。この勉強をしてよかった。
☆やっぱり家族は大切なんだと改めて思った。もし、私や兄弟が孫の立場に居たら、多分同じことをしていたと思う。それは、絶対してはいけないと思った。きちんと家族は大切にしないといけないなと思った。
☆僕が１冊のノートを見つけて読んだとき、自分なら「おばあちゃんはこうなりたくてなったんじゃないのに」と申し訳ない気持ちでいっぱいになるなと思いました。この文章を読んで、改めて家族以上の存在はないし、家族を大事にしようと思った。
☆私も実際にこういう体験をしたことがあるので、僕や隆の気持ちがわかるなと思いました。家族って大切だなと改めて思いました。
☆自分にもおばあちゃんがいてこの物語と同じようなことがありました。おばあちゃんにイライラしてきつく当たってしまったりしました。そして、この物語を読んで、」今までおばあちゃんを傷つけてしまっていることにとても申し訳ないと思いました。
☆今日の授業を聞いて、人間誰でもどんどん歳を取っていくことに変わっていくと思いました。私のおばあちゃん、おじいちゃんはまだまだ元気だけど、いつか変わるかもしれない。そのとき後ろからそっと背中を押したいと思います。
☆１冊のノートを読んで、隆たちの気持ちがよく分かるなと思いました。モノがなくなったりしたらおばあちゃんのせいにしたりします。でもこの１冊のノートのおばあちゃんと同じで、私のおばあちゃんもいろんなことをしてくれてるので感謝の気持ちを忘れずにいようと思いました。
☆今まで家族についてそんなに考えたことがなかったけど、今日よく考えられた。話に出てきたおばあちゃんは心の中はどうしようもない気持ちがあるのに、みんなの前ではどうかしようとしているのがすごいと思った。

☆あまり「家族」というのは好きじゃないです。腹立つとかいろんな感情があって好きじゃないです。でも、今日の読みものを読んでちょっと感動しました。これからは少しは大切していこうと思います。
☆自分に言い聞かせてまで、孫の面倒をみようとするのが、本当に孫のことが好きなんだなあと思いました。今までずっと嫌いだなあと思っていた人でもどこかに行ってしまうと嫌いじゃなかったんだと気づくことと似たようなことを「僕」は体験して、いたたまれないようになったんじゃないかなあと思った。
☆この教材を読んでおばあちゃんはわざとしてるわけじゃないのに孫に叱られたのはとても辛かったと思う。でも、孫は何回も忘れるのにムカつくのも分かる。理由がわからなかったら人を責めてしまうけど、理由がわかったら責めないで済むこともあると思う。

○いろんな家族の在り方がある。今ある家族の状態が決して当たり前ではない。誰かが気づかい作ってくれているから今の家族の関係がある。自分の今の生活がある。今一度、自分の家族のこと・家族の関係のこと考えてみよう。そして自分はどうあるべきか考えてみよう。

◆実施学年　（１年）

◆評価を位置づけた授業実践の分析

○評価の実際（評価した子どもの姿や、それをもとに行った支援）

各自の家族への思いが、授業の前と後で顕著な変化が見られた。

授業前は、子どもらしい甘えが見られ、世話してもらうことや言うことを聞いてもらうことを当然のように考えていた。また、何かを買ってもらうなど即物的なことに喜びを感じている生徒も多かった。同時に、子ども扱いされることへの不満や、行動を指示されることへの反発も多かった。

しかし、授業後の感想では、「僕」のいら立ちに理解は示しつつ、「祖母」の思いに触れて自分の行動を振り返ることができていた。自分の家族に対して見られた記述は、以下の 3 点である。

① 家族の思いを想像し、それに感謝する記述。

② 今までの自分の心ない行動を反省し、謝罪する記述。

③ これから家族を大切にしたい、長生きしてほしい、家族に頼らずに自分のことは自分でしたいという将来に対する記述。

○成果と課題

＜成果＞

ワークシートの設問を減らし、授業前と授業後の考えの変化が生徒自身にもはっきりわかるように工夫した。自己評価のためにもよかったように思う。

道徳ファイルを利用し、ワークシートをとじさせ、学期末や学年末の評価に利用できるようにしている。

＜課題＞

授業のテーマや内容、発見や考えを深められたかどうかなどに対して 5 段階などで自己評価をさせたらよかった。自分の授業への取り組み姿勢について、生徒自身が振り返るきっかけになるのではないかと思う。

発達段階において中学生に積極的な発言を求めるのは厳しい年代である。しかし、ワークシートに書かせる授業でなく、発言によって展開する授業をすることが求められる。そのためにも生徒が率直な意見を活発に発言できるクラス作りが必要である。

◆評価に用いた資料サンプル（子どものワークシートなど）

「一冊のノート」ワークシート（生徒の感想）

①家族っていいな、うっとうしいなと思ったことはありますか。

＜いいな＞

・毎日ご飯を作ってくれる。弁当を作ってくれる。

・自分のことを真剣に考えてくれる。家事をしてくれる。

・私の試合をお母さんが見に来てくれて、足りないところとよかったところを教えてくれる。

・家族がいたら自分だけではできないことなどいろいろいいことがある。

・私のほしいものを覚えてくれていて、それをプレゼントしてくれる。お小遣いがもらえる。

・ご飯のときなどに、一日に 3 回ぐらい思ったことがある。

・迎えに来てくれたりした。忘れ物があったら届けてくれた。

・一緒にいて楽しい。話で盛り上がっているときに、この家族でよかったと思う。

・高熱を出したとき急いで病院に行ってくれた。看病してくれた。

＜うっとうしい＞
・「早くお風呂入りや」とか「洗濯しろ」とか、掃除や布団干しをしろと言われる。弁当を出し忘れて怒られる。
・もう中学生なので、やりたいことやできることがあるのに、「末っ子やから」とやらせてくれない。
・いちいちうるさい。わかっているのに何回も言われる。やろうとしているのに言ってくる。
・気にしてくれていいなと思うことはあるけど自分ができてないのに私に注意などをしてくる。
・やらなくてもいいことを勝手にやる。
・「アレ買っといて」と言ったのに、「忘れてた」と一言で済まされる。
・してほしいことをしてくれない。
・弟妹が悪いときも自分が怒られる。
・ほかの家と違って厳しいから、ほかの家がうらやましく思える。

②今日の道徳の授業の感想を書きましょう。
＜感謝＞
・おばあちゃんの気持ちになって考えたらありがたい気持ちになると思いました。
・おばあちゃんやおじいちゃんに感謝しないといけないと思いました。幼いころから、今までお世話になったけど、恩返しをしたことがないので、もう少し大きくなったら、絶対に恩返しをしようと思いました。
・私のおばあちゃんも物忘れが多いけどこれからはおばあちゃんに優しく接するように心がけようと思いました。私たちも、お年寄りに支えられていることがわかりました。だから私も、おばあちゃんに恩返しをしたいと思いました。おばあちゃんにまた会ったら、ありがとうを伝えたいです。

＜謝罪＞
・あまり、家族に甘えすぎていてはだめだということを思ったし、言い過ぎたことや態度が悪かったこともあるから申し訳なかったなと思いました。

＜未来への決意＞
・毎日曾祖母には迷惑をかけられていると思っていたけど、この物語を読んで、もう少し考えを変えてみようと思いました。
・私は、お母さんが、早く起こしてくれなかったときに、怒鳴ってしまったことがあった。だけど、今思えば、お母さんに頼らず、自分で起きたらよかったなと思いました。
・「僕」にとっておばあちゃんはとても大切な存在だと思う。最初はおばあちゃんにいらだっていたけど最後は仲直りしている。僕はこんな経験がないけど、家族を大切にしたいと思う。
・家族ばかりにたよらずに、自分でやれることは、自分でしようと思った。
・私も、たまにおばあちゃんに怒ってしまうことがありました。でも、次は絶対に怒らないでおこうと思いました。自分のことばかり考えないで、おばあちゃんの気持ちも考えようと思いました。病気はなりたくてなったんじゃないから、不便なときは、一緒に助け合おうと思いました。

実践校名（八尾市立高美中学校）